

芸術と社会の交差領域におけるメディアアーティスト育成事業

共生と分有のトポス

受講生
募集

よそを聞くためにここで見ることを学ぶ。

あの事を再考しながら。

映画「ヒア&ゼア」監督ジャン・リュク・ゴダール より



京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

<https://liquid-kcua.jp/>

プログラム概要

本事業は受講生と共にどのように代替的な公共的手段を見つけることができるかという疑問から出発し、社会領域と共に芸術と教育それ自体にも対峙しつつ進められます。

令和5年の10月に京都市立芸術大学は京都駅東部の崇仁地域へ全面移転します。被差別の歴史を有するこの地域への大学移転は、行政、大学、地域住民の間での長期にわたる折衝を経て実現したものであり、芸術が有する独自性を深化させつつ、まちづくり構想にも開かれた役割をも担わされています。本事業では、地域・大学・芸術の関係について積み重ねられてきた調停から現れる「共通の属性」と「相容れない属性」、この複雑な関係について思考を重ね、以下の3つの活動を軸に進めていきます。

テーマ

1

環境：聞くこと～暮らしの生態系

フィールドワークやモノを介した対話をモデルとして「暮らしの生態系」から聞く技術。

テーマ

2

ケア：物語ること～アルバムに貼られていないスナップショット

言葉・イメージ・身体を介して経験を再構築し伝える技術。

テーマ

3

公共空間：Still Moving ～崇仁でゴドーを待ちながら

1と2でのリサーチを基盤に、取り壊された住宅の痕跡が残る空き地に仮設的な舞台設営を試みます。ここでの 準備 — 設営 — 展示公演 — 解体 — 移動 — 記録 というプロセス自体が古い課題を新しい視点から見るための地域との協働的な集団制作行為となるでしょう。

受講のかたち

設定したテーマに沿った身体行為、発話行為、屋外設営、音響、映像など実験的な制作を少人数のグループで経験してゆきます。個々の活動が相互に連環する演出を計画していますが、受講生とは継続的な参加方法よりは、むしろ、一回一回解散してリスタートする仮設的な協働性のあり方を探って行きます。

応募方法

下記URLの応募フォームよりご応募ください。選考結果はメールにてご連絡いたします。

<https://forms.gle/pW9r8eE9o2BaQRFQ6>



応募締切 | 2023年7月14日(金) 23:59

実施要項

- 受講料：無料
- 募集定員：15名
- 応募条件：対面での協働作業に積極的に参加できる方
- 受講期間：2024年2月末まで(金曜日の午後もしくは日曜日を基本に月に2回程度)
- 開催場所：京都市立芸術大学(移転先の新校舎を予定)ほか下京区周辺

講師予定 (敬称略・五十音順)

大西麻貴

建築家 / 横浜国立大学教授

奥山理子

Social Work / Art Conference ディレクター / みずのき美術館キュレーター

倉智敬子

美術家

清水チナツ

インディペンデント・キュレーター / PUMPQUAKES

高橋悟

美術家 / 本プログラムディレクター / 京都市立芸術大学教授

田中功起

アーティスト

徳山拓一

森美術館アソシエイト・キュレーター

長崎由幹

映像技術者 / PUMPQUAKES

松井広志

メディア論 / 愛知淑徳大学准教授

山内朋樹

美学 / 京都教育大学准教授 / 庭師

山田毅

美術家 / 蒐集家 / 京都市立芸術大学、京都芸術大学、京都精華大学非常勤講師

山本麻紀子

アーティスト / 京都市立芸術大学非常勤講師

ほか

諸注意

- プログラムの日時や講師、会場等に変更となる場合があります。
- 台風などの天候や新型コロナウイルス感染防止のために開催を中止することがあります。
- オンラインレクチャーの画面録画、イベントのカメラ・ビデオ等による記録撮影が行われ、ウェブサイトや報告書、広報物等で使用させていただく場合がございます。予めご了承ください。

お問合せ先

Eメール : art-f@kcua.ac.jp

電話 : 075-334-2006 (教務学生課 / 受付時間 | 平日9:00-17:00)

主催: 京都市立芸術大学 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6

※京都市立芸術大学は令和5年10月に移転を予定しています。連絡先・住所は変更となる可能性があります。

助成: 令和5年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

原画: 倉智敬子 デザイン: 柳澤裕樹 (サクサクデザイン)